

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆
小林国二・小林善秋・高橋潔
室賀清輝・高橋利春・加瀬由紀子
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください



御開山 二祖様の献香が終わったところ

大本山總持寺 御移転百年

翠巖龍弘

三月十一日の東日本大震災の被災地の復興を冀い、被災物故者の諸精霊に哀心よりご回向申し上げます。

合掌

曹洞宗には永平寺と總持寺の兩大本山がございます。大本山總持寺は瑩山紹瑾禪師によって今から六九〇年前、元享元年(一二三二年)

に現在の石川県輪島市門前町に開かれたご本山です。正中二年(一二三五年)にお弟子の峨山韶碩禪師が二世としてつがれ、峨山禪師は四十二年にわたって本山のために尽力されました。

峨山禪師の法統を嗣がれた弟子は二十五人おられ、中でも大源宗真・通幻寂靈・無端祖環・大徹宗令・実峰良秀の五人がもつとも秀でていたので五哲と称されました。これらの諸師が、観應二年(一二三五年)に總持寺に

普蔵院(大源)・妙高庵(通幻)・洞川庵(無端)・伝法庵(大徹)・如意庵(実峰)の五支院を開き、その住持より總持寺に輪番住持の制が始まりました。總持寺は発展してまいりましたが、明治三年に輪住の制を廃して、施座奕堂禪師が独住一世となりました。

明治八年には五院を總持寺に合しました。その後明治三十一年大祖堂より出火し伽藍の大部分を焼失してしまいました。今後の宗門発展の大局に立たれた独住三世世西有瑾英禪師・独住四世石川素童禪師の大英断によって明治四十年三月に寺基を現在の神奈川県横浜浜市鶴見区に移転、明治四十三年八月に入佛式を挙げ、明治四十四年十一月五日に遷祖式を挙げられました。能登の跡には新たに殿堂が再建され、總持寺祖院として今日にいたっています。

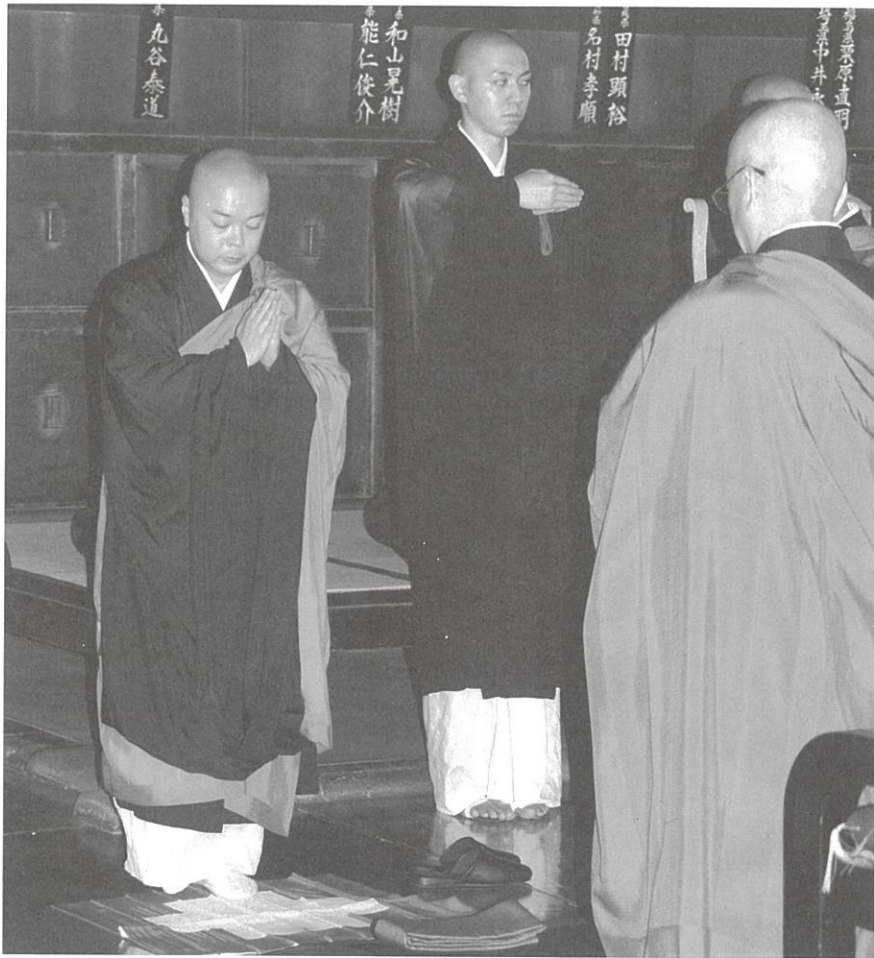
季刊第十六号の写真の「蔵王山」の山号額は、總持寺独住一世奕堂禪師の揮毫されたものであり、今年のご本山御移転百年に当たりますが、百年前の明治四十四年は安善寺廿六世見龍前住職様が数え十才で小僧として安善寺に入った年でもあり、深い因縁を感じます。

安善寺では記念すべき勝縁に檀信徒の皆様には是非ご本山に参拝していただきたくお願い、団参で五月十一日に本山泊、十二日の朝には御移転百年報恩法会の焼香師として私も、開山瑩山禪師、二祖峨山禪師に献粥させていただき導師を勤めさせていただきました。その時のものです。十二年前の平成十一年十月、御征忌の焼香師を勤めさせていただきました(季刊第八号に掲載)時と同様、感動と同時に歴史の重さを感じ入りました。

【日々精進(十三)】

さらなる精進修行のため總持寺へ

近藤 真弘



御本山總持寺での修行を終えて丸四年が経った五月、私の元に大変喜ばしい知らせが

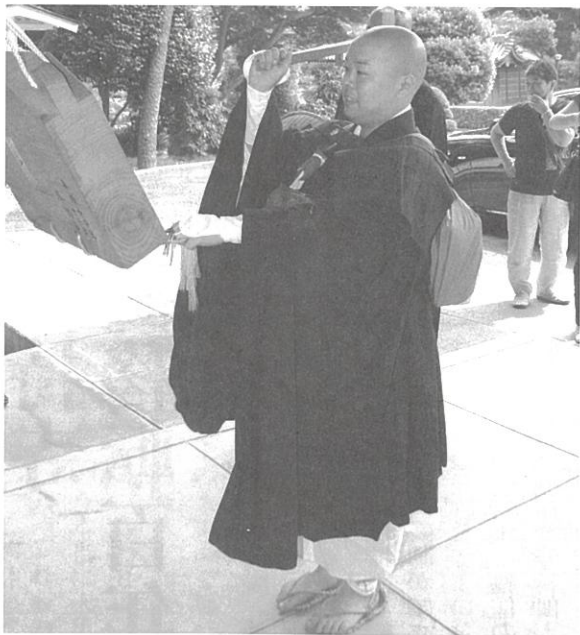
届きました。それは私の結婚式の式師をお勤め願った新潟市宗現寺の御住職

乙川暎元老師が總持寺の監院という大役に就任する事となったという知らせです。

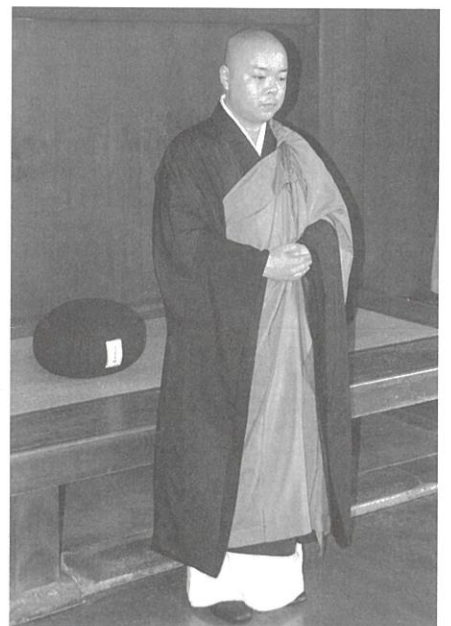
監院というのは曹洞宗の本山である總持寺の寺務一切を取り仕切る重要なお役であり、曹洞宗の僧侶にとつて大変名譽なお役でありま

す。乙川老師は總持寺の貫首である江川禪師様より御指名を頂き今回このお役に就任される事となりました。

そんな就任の報を喜び聞



いと、思いもかけず私と一緒に御本山に上山してくれないかと御誘いをいただきました。私にとっては大変ありがたい話であり、住



職に相談したところ本山護持の為少しでも役に立てるのなら、そして私自身のさらなる精進修行の為なら、上山の許可を出していただきました。

なに分にも急遽決まった話であり、檀信徒の皆さまには正式なご案内も出せぬまま六月十四日、平成十三年に三打した木版を再び叩き、監院侍者として上山させていただきました。

多くの方に「ご負担をかけながら再度上山させていただいた事を肝に銘じ、僧侶として少しでも成長して安善寺の檀信徒皆さまの前に戻れるよう精一杯精進していきたいと存じます。

ワインの不思議(1)

長岡市/ザ・ワイン中村 中村新太郎

ワインとは生のぶどうまたは生のぶどうの搾り汁の完全な、または部分的な発酵から生まれたものであると定義されています。(フランスワイン法)

日本に一番馴染みのあるビール、日本酒、これらはワインと同じ醸造酒です。ビールは麦、日本酒は米を使い、麦芽、麴を使ってでんぷんを糖化し酵母の働きで発酵し、アルコールになります。この二つの酒は原料の麦、米のでんぷんを糖にかえなければ、そのままでは酒になりません。ワインはブドウのなかに糖分、水分を貯えていますので、それを潰して、それを入

れておく容器があれば野生酵母の働きでワインになります。だから、人類が一番最初に口に入れたアルコールの一つと考えられています。これらのアルコール飲料は、その特性により生産されている立地が限定されています。

ます。ビールの場合には原料の麦、水すべてが一番集めやすくかつ大量に消費する都会に商品を搬送しやすいところに工場が建てられています。雪のある新潟には大手のビール工場がなかなか出来ないのは、輸送にコストがかかるからでしょう。

日本酒の場合は、水の良いところに酒蔵があります。当然、米は水より輸送が楽です。あとは気候風土です。ビールの場合はネックであった雪が、酒の仕込みには最高の条件になります。

ワインはというと、畑を離れられないことになりま。ブドウは収穫して短時間のうちに仕込みをしないと良質なワインになりません。だからワイナリーは畑の近くにあるのです。ワインとは、ブドウを腐らないように壘や甕に閉じ込めたものと考えられます。だから、良いワインはブドウからといわれ

ます。どんなに人が頑張っても、原料のブドウを超えることはできないと考えられています。そういう意味でワインは農作物です。ワインの造り手は、多くの場合ブドウ栽培者です。ワインを醸造する作業はワイン造りの一部であり、重要なのは畑での作業と考えている生産者が大多数です。



ビール、日本酒とちがいは、毎年同じワインを造ろうとは考えていません。その年の気候、その畑の土壌、ぶどうの樹の樹齢によって、できる

ブドウに差異があります。それをそのままワインにしたただけです。そのところにワインの不思議のひとつ、ヴェンテージ(収穫年)がでています。

1982年、1990年、2000年、2005年、2009年のボルドーワインは偉大なヴェンテージだ。今年はどうなるか?と言うような話がワイン愛好家の中に限らずボージョレーヌー

ポーの時期になるとみんなの話題になります。その年の気候は国や地方によって違いますので、当然当たり年は地方によって違います。そこらへんは複雑ですので我々専門家の出番ということになります。このことから、当然毎年ワインの価格は変わります。例えばロマネコンテ。世界で一番高価なワインの一つですが、最近の2000年ものは五十万円ですが、1985年になると

中村新太郎



それ以上寝かせて保管しても良くはならないワインです。同じワインと呼ばれても価格、品質にもすごい違いがあるのはワインの不思議なところ。先ほどワインは農産物と話しましたが、日本では異なるワインも造られています。日本ではブドウの価格が高くて日本のブドウだけでワインを造るとワイン生産国のフランスやイタリア、スペイン、チリのように1本300円以下のワインは造れません。

そこで濃縮還元(100%ブドウジュースを輸入して、日本で発酵させて瓶詰めをしたワイン)があります。発酵自体は二週間から三週間で終わりますので、発酵タンクをフル稼働することができません。そうしないと低価格のワインは造れません。しかしそれは日本のワインといえるでしょうか?



この続きは次号へ

加瀬加奈子選手後援会設立

みんなので応援しましょう！

高橋利春



なに？ ロンドンオリンピックに誰が出るの？ 安善寺の季刊紙に関係あるのか、それが、それが何と御檀家で毎回後ろのページで「句歌愁灯」を書いていっている加瀬由紀子さんの娘さんが女子競輪選手として出

場(7月に決定の予定)するそうです。私と加瀬加奈子さんの出会いは昨年、長岡長生ライオンズクラブの例会において講演をいただいたということが最初でした。加奈子さんは以前はトリアスロン

の選手として2007年から長岡市役所に籍を置き、多くの大会で一位、二位の成績を残し、第二十四回温海トリアスロン大会や第二十回東京都トリアスロン渡良瀬大会、第十一回うつしまトリアスロン「あいづ」等、それぞれ一般の部一位という大活躍をし、トキメキ新潟国体トリアスロン(村上)では十七位という成績の持ち主です。

その時は入賞は逃しましたが、バイク(自転車)ではトップのタイムをたたき出す大健闘で、スイム(水泳)では二十五位でしたが、十一人をごぼう抜きして最後のランにつなげて、沿道の声援に応えながら十七位で村上市役所のゴールに入ったそうです。昨年の十二月には全国の精鋭が集う女子競輪「ガールズケイリン」が小倉競輪場で

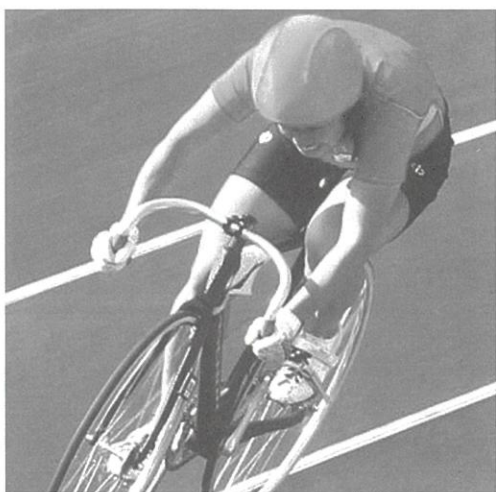
行われ、オリンピック候補を抑えて初勝利をしたそうです。「バイクでライバルをぶち抜くのがトリアスロンの魅力」、バイクの力を磨き、オリンピックに出るのだ、と今年の春には日本競輪学校の試験にパスして猛特訓中です。太股はしっかりとシワ一つなくパンパンとした肌で、可愛らしい男子の子という感じの方です。この長岡出身の競輪選手加瀬加奈子さんを2012年ロンドンオリンピックで日本代表選手として頂点を目指し活躍できるよう、みんなので応援していきたい、という話が安善寺での編集委員会を持ち上がり、色々な方に話をしたらライオンズクラブ、ロータリークラブや長岡市体育協会など、大勢の皆様のご協力をいただき、私たちが発起人となり長岡市全体で一つの後援

会を設立しようと準備しているところですが、四月二十八日の初会合の時、安善寺の編集委員の方々からお集りいただき、勢いをつけていただき、ありがとうございました。八月十日には、現在競輪学校で猛特訓中の加瀬加奈子さんを囲んで「加瀬加奈子選手後援会」の設立総会と懇親会を計画しております。後援会は年会費三千元で誰でも自由に入れますし、退会も自由です。

入会すると加瀬選手の活動状況や情報を送付させていただきます。ロンドンに応援に行く時は

あれば優先にご案内させていただきます。皆様にもご賛同いただき、皆様の入会をお願いするとともに、友達などもお誘いいただき、入会と設立総会へのご出席も合わせてお願いいたします。

後援会の会則や入会申込書などの詳細は別紙となりますので、ご希望の方は加瀬由紀子様、または安善寺様にFAXで「加瀬加奈子選手後援会」資料希望と書いてご送付ください。追って手資料を送付させていただきますので、ご覧いただきご賛同いただきましたらぜひご入会をお願いいたします。



■連絡先
加瀬由紀子宅 FAX.0258-36-0510
安善寺 FAX.0258-32-2870

自転車競技選手・加瀬加奈子さんの ロンドンオリンピック出場を 応援しましょう!

〔加瀬加奈子さんのご紹介〕

1980年5月長岡市生。
現在三十一歳。

長岡市立神田小学校、長岡市立東中学校、中越高等学校、順天堂大学スポーツ健康科学部を卒業。小学五年の時、一学年上の従妹と



同じミニバスケットボール部に所属したのをきっかけにスポーツに目覚める。その後中学、高校、大学二年までバスケット部に所属。ケガにより、バスケット部を退部。それをきっかけにトライアスロン部に入るが、間もなくして退部。

大卒後、埼玉県内の知的障がい者施設で運動療法士として働く。

大学時代の友人より、2009年にトキメキ新潟国体でトライアスロン競技が国体での第一回大会として開催されることを聞き、新潟県代表として出場したい!

という意欲がわき、徐々にトレーニングを始める。出場に向け、2007年秋に埼玉の仕事を辞め、長岡に拠点を移す。同年の冬に長岡市役所介護保険課の運動指導員として働きながらトライアスロンの練習に専念する。

2009年9月、新潟県村上市で行われた「第六十四回トキメキ新潟国体トライアスロン競技」に出場。強豪選手が出場する中、総合順位は十七位に終わったものの、スィム・バイク・ランの三種目中、バイク(自転車)のみの順位は参加選手の中で一位となり、トライアスロン界に「バイクの加瀬」と、その名を知らしめた。その活躍を機に、日本選手権出場への切符を手にする。

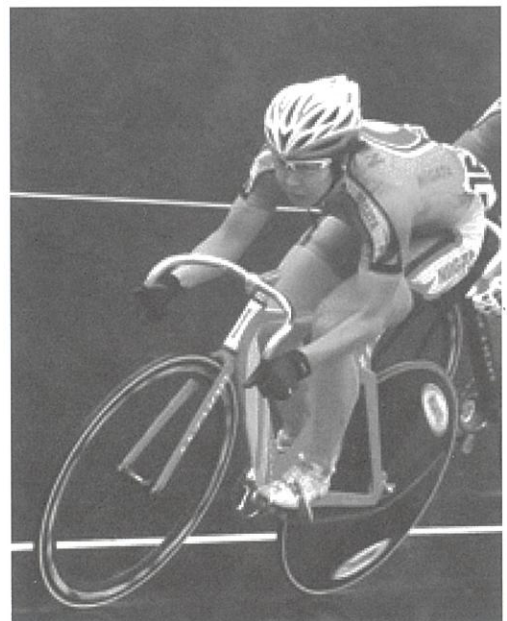
2010年5月、弥彦競輪場で女子競輪選手の育成と



する「CUB SPIRITS」の募集に合格し、プロ選手へ向けて練習を開始する。

【CUB SPIRITS】のメンバーである中川諒子選手(熊本県出身)と共に、自転車トラック競技を始めて1年に満たないにも関わらず、みるみる頭角を現し、2012年開催のロンドンオリンピック育成に向けた強化指定選手に選ばれる。

中川選手と共に、2011年2月アジア選手権(タイ)、同年2月ワールドカップ(イギリス)チーム女子スプリントでは日本新記録、同年3月世界選手権(オランダ)に日本代表として出場し、「自



転車界に新星現る」と評され、自転車界にもその名が知れ渡った。

2011年5月、日本競輪学校入学。新入生記録会で200MFD、400MFD、1キロTT、2キロTTの全4種目1位の快挙を達成。自転車競技開始一年足らずで橋本聖子氏の1キロTTの日本記録(1分14秒30、加瀬当日記録1分15秒53)を塗り替える希望が見えてきた。また7月のロンドンオリンピック選考会の成績で正式に出場が決まる。
2012年3月卒業後、7月にプロ女子競輪選手としてデビュー予定。

KAKA笑の会「食事ボランティア」実施 避難所の皆様へ、 温かい食事を届けたい!

【第十六回中止のお詫び】
前回の季刊誌でお知らせしました第十六回の催し、六月十八日開催予定の「ボサノヴァ・コンサート」ですが、諸般の事情から中止といたしました。楽しみにされていた皆様には、たいへんご迷惑をおかけいたしました。紙面を借りて、深くお詫び申し上げます。

三月十一日に発生した東日本大震災後、KAKA笑の会では急きょ対応を協議、実行委員全員の承諾のもと、中止したコンサートに代えて、長岡市に避難している福島県の被災された方たちにボランティアで温かい食事を提供しよう、ということになりました。



七年前、中越地震の際に長岡(特に山古志地域)は甚大な被害を受け、全国から救援物資や義援金を頂き、各地から駆けつけた大勢のボランティアから支援していただいたお礼も兼ねて、避難所の皆さんから少しで

も喜んでいただけるようにと、お料理上手な(?)実行委員のウデの見せ所! まずはメニューの打ち合わせ開始。材料調達作業に奔走。

【四月二日のメニュー】

(長岡の味覚取り揃え)
・醤油赤飯・佃煮・実だくさんのつぺい汁・漬物 他に「紅屋重正さん」が和菓子提供も。

「紅屋」さんからは、不足気味のもち米をはじめ、材料の手配にご尽力いただきました。前々日早朝から実



行委員大勢が二百食の準備に取り掛かりました。当日、避難所(北部体育館)脇のテントに鍋を運びプロパンガスで温めたのつぺい汁は、

いつも冷たい食事が殆ど、という皆さんに大好評でした。この模様はNHKやケーブルテレビのニュースで放映されました。



【四月二十四日メニュー】

(百二十食)
・白和え・煮物盛り合わせ
・お汁・漬物・お稲荷さん・デザート

避難者の皆さんからの感謝や喜びの声を聴き、二回目を実施。この回は三名の避難の方たちも加わっていただき、前々日から和気藹々の調理作業でした。

未だに故郷の南相馬市に戻れない避難のみなさんが大勢おられます。長岡での食事に少しでも和んでいただき、一日も早く以前の平和な暮らしが戻る日を願わずにはいられません。

お別れ

(平成廿三年三月~六月末まで)

渡邊健三様 三月五日寂

長岡市柏町

田崎 巖様 三月九日寂

長岡市愛宕町

林 光男様 三月廿一日寂

長岡市宮内町

鈴木 清様 三月三十日寂

長岡市渡場町

石黒 マス様 四月十五日寂

長岡市福住

大原 博様 四月二十日寂

燕市中央通り

鈴木 ミイ様 五月六日寂

長岡市西新町

岩佐 清様 五月十三日寂

長岡市福住

津端 進様 一五月十九日寂

長岡市城岡

松尾 昌直様 五月廿五日寂

長岡市長町

村越 三男様 六月十五日寂

長岡市城岡

間野 キヨ様 六月十八日寂

長岡市新保

ご冥福をお祈りいたします

旬歌 愁灯 [三十話]

遥かなる山の呼び声

加瀬由紀子

五月の連休が明ける頃、県内の山岳地帯の随所で「山開き」が始まる。雪融けが進んだ低山から始まり、七月末の残雪豊富な高山まで順次、「山開き」を終える。

その昔、信仰の対象として修験者や僧しか登ることが許されなかった高山を「山開き」をすることによって一般の人々にも開放されたのが、ことの起りだという。たどり着いた山頂に祠や鳥居をよく見かけるし、白装束の行者が法螺貝を吹いて念仏を唱え、難所を登る場面に遭遇したこともある。山岳信仰は日本に限らず、山頂に建てられた修道院や、ケルン・十字架、タルチョ（チベットなどで経文が記された五色の旗を祀ったり、聖山を仰ぎ見ながらの五体投地など、山を崇める思いは共通らしい。

六月のある日、木六山(き

ろくやま)の山開きに出かけた。村松(五泉市)の奥、早出川(雨が降ると直ちに出水することから地元では「はいでがわ」と呼ばれる)の源流域に横たわる川内(かわち)山塊の前衛峰が木六山(標高八二五M)で、銀次郎山、銀太郎山、五剣谷山、青里岳、そして主峰矢筈岳(一二五八M)へと続く。更にその先は、会津との県境の耳にすることのない山々へ連なる。知る人ぞ知る「日本の秘境(太陽・別冊号)」に載り、「日本のチベット」とも評されるこの地帯は、豪雪と深い藪に阻まれ、踏み跡も定かでない残雪のごくわずかな期間だけ、立ち入ることができる地域なのだ。

「ガンガラシバナ」の三百Mにも達するスラブ(岩壁)や「ジッピ」という名の逆V字ゴルジュ(険谷)はエキスパートのクライマーや釣り人以外、訪れることはできない。クマも出没していて、矢筈山岳会の方たちと山開きに登るのが正解、と考えた。集合場所の村松支所(旧役場)から車に乗り合わせで杉川沿いを廻り悪場峠へ向かい、杉林を歩き始める。「楽しみに長岡から来ました」と地元の男性に話しかける。「昼間、メシ、メジロかヤブだね」おじさん、ニヤリと怪しく笑う。よくよく聞き返せばなんと! 「ヒル、マムシ、メジロ(メジロアブという吸血アブ)、ヤブ蚊、ダニ」の襲撃がすごい、と言ったのだ!

そして、足元を見れば、我が登山靴に這い登って来るヒル数匹、丸い小さな塊があつという間に数センチ伸び縮みを繰り返し、進むその速さ! 数人の女性たちから悲鳴があがる。つぶしてもつぶれず、払っても

新手が登ってくる。早くも魔境・川内山塊の洗礼を受けながら、狭い急な登りに取り付く。トラロープや鎖の続く急崖は、事前に山岳会で刈り払いをしたらしく順調に進める。五月の連休に一人で矢筈に向かった登山者が行方不明になり、捜

索したがまだ見つかっていないとか。山慣れた地元山岳会のメンバート一緒によかった、とつくづく思う。

山頂からの展望は、矢筈へ至る残雪の稜線、雪崩に研ぎ削られた深い谷、目を転じれば粟ヶ岳、白山、守門、そして遥か彼方に真つ白な飯豊連峰。映画「シェーン」のラストシーンでテーマ音楽と共に坊やが叫ぶ名場面。「シェーン、カムバック!」ではないが、「遥かな山並みが私を呼んでいる。カムバック!」

としばし感慨にふける。

翌週は矢筈岳の裏側、津川の奥なる伝説の「御前ヶ幽窟」が山開きと聞き、早朝七時に登山口に参上。阿賀町役場の担当二人からお神酒を戴き、登山届に記入。

クマが出ているとかで居合わせた新潟市からの夫婦連れと一緒に登山開始。沢を渡渉し、対岸の沢沿いの道を上下しながら、再び渡渉。右岸に移り枝のテープをやつと探し当て、苔で滑る貧相なシジミ沢を登って行くと、いきなり目前に三つのモアレ像のような岩塔群が見えてくる。沢は巨大なスノーブリッジがあり、雪塊だらけで危険極まりない。右岸を高まき藪をこぎ、崖を四つん這いで登る。役場の担当者も合流したが、道に迷うこと数回。幽窟の先はロープもなく手を離せば三百M下の谷に落ちる岩場があり、前週の木六山との整備の差が甚だしい。岩壁で苦闘数時間、指がしびれ吊ったが、会津県境の山々の凄まじさをたつぷり堪能した山行となった。



ボブの独り言

成長に癒されて！

ボブの独り言

最近雨ばかりで私の行動範囲は水溜まりになってる場所が多い上に、真人君の休んでいる部屋は入れてもらえず、下は下でサクラとノンが暑くなったので台所のドアを開けて、階段の下に大きい体を横たえているものですから、本当に楽々できなくなりました。世の中もあちこちで異変が起きてきているような気がしてならないのです。



東日本大震災が起きる直前にニュージーランドで地震があり、アメリカでは再三大きな竜巻の被害がおこっています。今年は晴れば【猛暑】降れば【豪雨】、ほどほどが良いのにそれがなくなってしまうたよう、また何か大きな災害が起きなければ良いのですが…。

お寺は真人君がとても活発になって来て、毎朝本堂にお参りに行くと抱かれて

いる手を振り払い、キャッキヤツと言いつつ何時間も座り職が座るところへ一目散に這い這いをしていつ、天井の扇風機のリモコンを見つけて小さな手であちこちのボタンを押して、扇風機が回りだすと私には解らない言葉で回り出した扇風機を見て両足をバタバタとして喜んでいきます。最近木魚にかけてある布をはずし、次に鐘にかけてある布をはずし、大きな木魚と鐘を小さな手で叩いて屈託なく遊んでいる様子は、お寺の孫だなと微笑ましくなると同時に、広い場

所で思う存分這い這いが出来て幸せだなとつくづく感じます。

そんなある日、バーバが腰を抑えながら整骨院に通い出しました。十歳になるサクラが後ろ足がまったく動かない、毎朝・晩に四十キロ近くあるサクラの腰を持ち上げて介護の日々、ギックリ腰になってしまったようです。でも、犬と遊ぶ声が聞かれるようになり、良くなったようで一安心しました。

最近、副任職の姿が見られなくなりました。六月の中旬から大本山總持寺様へ勤めることになったそうです。

お寺も淋しくなりましたが、真人君の日々の成長に癒されながら家族みんなで仲良く留守を守っていきたいと思っています。ニヤーン

編集 雑感

平成二十三年三月十一日、世界でも類を見ない大災害。大きな強い地震、数十メートルの大津波、それに加え原子力発電所の最大級の被害と、今までに経験したことのない災害が起きた。

このことについてはいろいろな人々が防災のこと、復興のこと、「復興計画もなかなか進まないようで、これだけは早く進めて安心して暮らせるようにして欲しい」と願っています。と書き、話をしておられますが、一番大変なことは原子力事故のことだと思えます。

この事故によってこれから原子力発電所を作る国、今まで使用していた国に少なからず影響を与えることは必至と思えます。私たちも少しでも節電に協力できるような普段の生活の中で考えようではありませんか。

また、この大震災で尊い命を亡くされた人、今だに行方不明の人、合わせて二万数千人という本当に大災害となりました。これらの方々に黙祷し、ご冥福をお

祈りし合掌。

さて、私も今年還暦を迎えることになりました。(昭和二十六年十一月生れ)本人はまったく六十才になることなど感じていませんが、友人数人が発起人になり還暦のお祝いの会を開いてくれるということになり、六月の初めに集まりゴルフコンペをし、その後ゴルフをしない人も呼んで祝賀会をしようと、話がまとまり、代表発起人に私が所属しているライオンズクラブの会長がなり、いろいろ



んな方面の皆様にあいさすということに話が進み、話がだんだん大きくなり、私自身うれいと言うより困っている状況ですが、みなさんの思いを無駄にも出来ずに「還暦万歳」と行きたいのですが…。

このことも含めて、改めて還暦とは人生の大きな節目なんですかね？

小林 善秋

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

第五十五号、秋号は平成二十三年九月十二日(月)発刊予定です